

# みんなで支え、育てるまち

～親子にやさしい環境づくりを進めています～

核家族や共働き世帯が増え、待機児童や子育て負担の増加が全国的な問題になっている昨今。育児中のお母さん・お父さんは、孤独な状況に置かれがちです。「なんで泣いているの」「この時季はどんな服を着せたらいいの」など疑問や不安が生まれたり、また、2人目、3人目を育てる際には初めての子とは違う悩みが生じたりします。

未来を担う子どもを健やかに育てることは、社会全体の重要な課題です。市では地域の皆さんと協力し、親が楽しみや喜びを実感しながら、子どもたちが心身ともに豊かに成長できる「子育て世代にやさしいまちづくり」を進めています。

☎子育て支援課 94-4633



## あなたも子育て応援団

何か手伝いたいと思っても、どうしたらいいかわからないという人も多います。子育てに関わる方法はさまざまです。生活のリズムに合わせて自分にできる関わり方を見つけ、地域全体で親子を見守る空気を作りましょう。

### 子育てアドバイザー(市の会計年度任用職員)

内容 子育て支援センターやつどいの広場などで相談に応じたり、乳幼児と触れ合ったりする【有償】**必要事項**保育士資格や幼稚園教諭免許など※2面に募集内容を掲載しています

たとえばこんな人に

平日の午前中から夕方まで時間があります。自分の資格や経験を生かして子育て中の人を応援したい。週2・3日ならやってみたいです。



◇週3日以内のシフト制です

### 子育てサポーター

内容 子育て支援センターや子育てひろばで、子育てアドバイザーと一緒に話を聞いたり、乳幼児と触れ合ったりする【無償】つどいの広場で、話を聞いたり乳幼児と触れ合ったりする。民生・児童委員と一緒に赤ちゃん訪問を行う【有償】**必要事項**会員登録(例年10月に実施する養成講座受講後)

たとえばこんな人に

平日の午前中に空き時間があります。活動日や時間は決まっていたほうが動きやすいです。



◇仕事をしながら活動しているサポーターもいます

### ファミリー・サポート・センター支援会員

内容 市内に約530人いる依頼会員の要望に応じて、自宅での預かりや教育保育施設、習い事などへの送迎を行う。対象は生後3カ月～小学校6年生【有償】**必要事項**会員登録(例年10月に実施する研修会受講後)

たとえばこんな人に

週に数回、空いている時間で預かりや送り迎えならできるかも。



◇自身も子育てをしながら活動している会員もいます

### ちょっとした気遣いで応援を

近所の親子連れにあいさつをするなどの心掛けも、支援につながります。電車やバスの中で妊婦さんや、小さな子どもを連れた人が困っていたら、「お手伝いしましょうか」と声をかけたり、席を譲ったりすることも大事です。

## 私たちの活動を紹介します

### 仲間を作り、楽しく過ごしてほしい

子育てアドバイザー  
吉野 清美さん(小稲葉)



自分自身なかなかママ友を作ることができなかったのも、同じ境遇の人を助けたいと思い、12年間続けています。子育て支援センターやつどいの広場などで親御さんの相談に乗ったり、子どもと触れ合ったりしています。コロナ禍で「同じ年齢の子を持つ人と話したい」という声が多くあり、支援センターでは月に2回、おおむね1歳までのお子さんと保護者を対象に「びよびよタイム」という集いの場を開いています。ぜひ、多くのお友達を作りたいと思います。



子育て応援フェスタで相談を受ける吉野さん(写真中央)

### 悩みがあれば打ち明けてほしい

子育てサポーター  
佐々木 紀子さん(高森)



週に3回、「つどいの広場なるせ」で悩み相談などを受けています。活動する中で、近所での「顔の見える関係づくり」が大切だと感じようになりました。最近はインターネットやSNSで多くの情報を得られるようになった反面、地域ぐるみで子育て世代を応援する雰囲気を感じられず、孤独感をもつ人も多そうです。おせっかいに感じるかもしれませんが、幅広い年齢層が若い人の悩みを直接聞き、少しでも不安を取り除ける環境を作りたいです。



つどいの広場なるせの様子

### 子育て中の人でも活動できます

ファミリー・サポート・センター支援会員  
田中 麻由美さん(東成瀬)



4人の子どもを育てながら、10年以上習い事の送迎や乳幼児の預かりをしてきました。送迎の間に、その日あったことを話してくれたら、宿題の内容を教えてくださいたいのがうれしいです。小さい子と一緒に公園に行くと、元気や癒しをもらえます。現在は週に2日程度、自分のペースで活動しています。大きく育った姿を街中で見かけると、感慨深い気持ちになりますね。子どもが好きななら誰でもできますので、支援の輪がさらに広がるといいですね。



依頼会員の要望を聞き、支援内容を決めます

## 育児を支える支援の輪

三世代で同居することが多かった時代には、祖父母や兄弟姉妹が子育てを手伝っていました。また、隣近所の子でも分け隔てなく世話を焼く光景も見られました。しかし、核家族化が進んだことで自分の子が生まれてから初めて子育てを経験したり、親族からの援助が得にくくなったりすることが増えています。一人での育児に強い負担感や孤立感が生まれると、マタニティ・ブルーや産後うつ病にもつながるとされています。

こうした状況を改善するためには、多くの人が子育てに関わるのが大切です。市では、地域や医療機関、行政が一体となって支援に取り組んでいます。

### 子育て世代を支える体制



### 切れ目なく、細やかに支えます

市役所1階の担当課内には、安全・安心に子育てができる支援体制を整えるため、「子育て世代包括支援センター」を開設しています。

妊産婦や乳幼児などの健康の保持・増進を図ることを目的に、妊娠から出産、子育て期の家庭を保健師や助産師などの専門職員がきめ細かく支援しています。お母さんやお子さんの心身の健康に関する悩みや困り事があれば、ご相談ください。

受付日時 平日の午前8時30分～午後5時15分(年末年始を除く)

電話番号 94-4637

### 主な支援内容

ライフステージ	取り組みの例
妊娠前～妊娠中	◇不妊症・不育症治療費の一部助成 ◇母子・父子健康手帳の交付 ◇支援プランの作成 ◇母親父親教室や祖父母教室の開催 ◇妊婦健康診査・歯科検診費用の一部助成
産前～産後	◇健康相談、妊産婦乳幼児訪問 ◇未熟児養育医療費の助成 ◇こにちは赤ちゃん訪問 ◇産後ケア
子育て期	◇乳幼児健康診査・相談の実施 ◇経過検診や各種教室・講座の開催

## 子育て応援ポータルサイトをご利用ください

子育てに関する各種相談やサービスの情報を、年齢別・目的別に探すことができます。市ホームページまたは右のQRコードからご覧になれます。ぜひ、ご利用ください。



## だから、この場所で育てたい



宮田 寛子さん(石田)

福岡県で生まれ、4歳の時に引越してきました。社会人になり、都内で一人暮らしをすることになりましたが、心のどこかで伊勢原に戻りたいという気持ちがありました。転職を機に帰ってくることにし、現在は2人の娘(4歳と生後5カ月)を育てています。

### 医療・支援(サービス)が充実

自分が子を持つ側になったとき、産み育てる環境として伊勢原市はとても優れていると思いました。まず、産む環境が整っています。東海大学医学部付属病院や伊勢原協同病院をはじめ、近隣に比べて多くの産婦人科があり、安心して出産を迎えることができ

ます。妊娠中や出産直後は何かと不安になりがちですが、地域医療が充実しているのは想定外のことがあったときの安心材料として大切だと思います。

### また、公民館やコミュニティ

センターなどの身近な施設では、初めて親になる人向けの講座があったり、予約制で子どもの健康相談ができたりするので助かります。子どもと散歩をしていると、幅広い世代の人から「お子さん、大きくなったね。何かできることありますか」と温かい声をかけてもらえる



はじめての両親教室では妊婦体験ができるほか、お風呂の入れ方などを学べます

のも、心の支えになっていたりします。

### 豊かな自然も大きな魅力

市内にはミカンやイチゴ狩りを楽しめる果樹園があるので、週末に家族で遊びに行けますし、上の子が通う保育園では日常的に農作業体験をしています。都会では味わえない楽しみがこのまちにはあると思います。地場産の野菜や果物を手軽に買うことができるのも、子どもの健康を考えると重要なポイントですね。

今後の希望としては、家族でリフレッシュできる場所がもっと充実していればいいなと感じます。幼い子を育てる私たちにとっては、少し遠い所から子どもを見守り、一息つけるような場所が欠かせません。総合運動公園が3月にリニューアルすることを知るとても期待しています。



すくすく健康相談では保健師や助産師が相談を受けています

## 体験! おすすめ伊勢原時間

市のおすすめスポットを宮田さん親子に体験してもらいました※施設や公園を利用する場合はマスクの着用など感染症対策をお願いします(撮影のため、一時的にマスクを外しています)



【図書館】年齢に応じた児童書を借りることができます



【子ども科学館】プラネタリウムでは臨場感あふれる星空が楽しめます



【総合運動公園】さまざまな遊具があり、外で元気に遊べます



おやつに最適な地場産スイーツを買い求める場所もあります